平成30年7月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年6月6日

上場会社名　日本スキー場開発株式会社　　上場取引所　東
コード番号　6040　URL http://www.nippon-ski.jp/
代表者　(役職名) 代表取締役社長　(氏名) 鈴木　周平
問合せ先責任者　(役職名) 常務取締役管理本部長　(氏名) 宇津井　高時　TEL 0261-72-6040
四半期報告書提出予定日　平成30年6月13日
配当支払開始予定日　―
四半期決算補足説明資料作成の有無　：　無
四半期決算説明会開催の有無　：　無

(百万円未満切捨て)

1. 平成30年7月期第3四半期の連結業績 (平成29年8月1日～平成30年4月30日)

(1) 連結経営成績 (累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
30年7月期第3四半期	5,876	3.7	1,107	14.2	1,098	13.5	801	57.6
29年7月期第3四半期	5,667	10.5	969	55.8	967	56.6	508	80.0

(注) 包括利益　30年7月期第3四半期　845百万円　(41.5%)　29年7月期第3四半期　597百万円　(89.1%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
30年7月期第3四半期	100.35	―
29年7月期第3四半期	63.58	―

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、30年7月期第3四半期及び29年7月期第3四半期は希薄化効果を有している潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
30年7月期第3四半期	6,785	5,928	81.9	697.14
29年7月期	6,037	5,119	79.8	601.94

(参考) 自己資本　30年7月期第3四半期　5,559百万円　29年7月期　4,815百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
29年7月期	―	0.00	―	0.00	0.00
30年7月期	―	0.00	―		
30年7月期 (予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無　：　無

3. 平成30年 7月期の連結業績予想 (平成29年 8月 1日～平成30年 7月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,480	5.3	600	35.5	590	34.1	350	42.7	43.84

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無　：　有

(注1)当社グループの売上高は、通常の営業の形態として冬季に売上計上する割合が大きく、業績には季節変動が生じます。
(注2)連結業績予想の修正については、本日 (平成30年6月6日) 公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動） ： 無

新規 ― 社 （社名） 、 除外 ― 社 （社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 ： 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 ： 無

② ①以外の会計方針の変更 ： 無

③ 会計上の見積りの変更 ： 無

④ 修正再表示 ： 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	30年7月期3Q	8,000,200 株	29年7月期	8,000,200 株
② 期末自己株式数	30年7月期3Q	25,000 株	29年7月期	0 株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	30年7月期3Q	7,986,954 株	29年7月期3Q	8,000,200 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたって注意事項等については、添付資料5ページ『1.当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想等の将来予測情報に関する説明』をご覧ください。

○添付資料の目次

１．当四半期決算に関する定性的情報 …… 2
（１）経営成績に関する説明 …… 2
（２）財政状態に関する説明 …… 5
（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 …… 5
２．四半期連結財務諸表及び主な注記 …… 6
（１）四半期連結貸借対照表 …… 6
（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 …… 8
四半期連結損益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 8
四半期連結包括利益計算書
第３四半期連結累計期間 …… 9
（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項 …… 10
（継続企業の前提に関する注記） …… 10
（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記） …… 10
（重要な後発事象） …… 10

１．当四半期決算に関する定性的情報

（１）経営成績に関する説明

当第３四半期連結累計期間における当社グループの業績の状況は、以下の通りです。

当社グループは、長野県のHAKUBA VALLEYエリアに４箇所、他に長野県で２箇所、群馬県と岐阜県にそれぞれ１箇所、合計８箇所のスキー場を運営しております。このほか、HAKUBA VALLEYエリアを中心に９店舗のレンタルショップを展開するスパイシーと、サーフトリップなど国内外のスポーツ愛好者向けに旅行サービスを提供するGeekoutが昨年８月よりグループに加わり、これらの営業体制で事業を行いました。

（ウィンターシーズン）

当ウィンターシーズンは自然降雪に恵まれ、また当社が数年来進めている人工降雪能力を向上させる投資が効を奏し、順調にシーズンがはじまりました。２月の平昌冬季オリンピックでのアスリートの活躍や、1980年代後半に流行したスキー場を舞台とした映画によるＰＲなどメディアでスノースポーツが多く取り上げられたことも好感され、１月から２月は前年同期比を上回る多くのお客様が来場されました。その後、３月は記録的な暖気の到来や降雨による融雪を懸念しましたが、前年同期比微減にとどまり、各スキー場とも概ね予定通りの期間、営業を続けることができました。

なお、HAKUBA VALLEY 白馬八方尾根スキー場、HAKUBA VALLEY 栂池高原スキー場はゴールデンウィークを含む５月６日まで営業を行いました。

各スキー場の当ウィンターシーズンの来場者は、HAKUBA VALLEYエリアの白馬八方尾根スキー場、白馬岩岳スノーフィールド、栂池高原スキー場の３スキー場、めいほうスキー場および菅平高原スノーリゾートにおいて、前年を上回りました。特に白馬岩岳スノーフィールドは、さまざまなイベントの開催、山頂エリアなどでの飲食サービスを充実させたことが好評で、前年同期比20％を超えるお客様が来場されました。鹿島槍スキー場では、イベントの開催などの企画に注力しつつも採算の改善にも努めましたが、前年をやや下回る結果となりました。都心部から日帰り可能な川場スキー場ではやや苦戦し、前年を下回る結果となりました。

次に、訪日外国人（以下「インバウンド」といいます。）に関しましては、オーストラリア、中国、香港よりHAKUBA VALLEYエリアへの来場者が多く、暖気の到来や降雨による融雪の影響で３月のインバウンド来場者が減少し、154千人（前年同期比1.3%減）となりました。

これらの結果、当ウィンターシーズンの平成30年４月末現在のスキー場別来場者数は1,658千人（前年同期比3.1％増）となりました。ウィンターシーズンの施設別の来場者は次のとおりです。

スキー場別来場者数　（単位：千人）

運営スキー場	平成29年 ４月末累計	平成30年 ４月末累計	前年同期比
HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場	370	404	109.2%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド	100	121	120.6%
HAKUBA VALLEY栂池高原スキー場	263	269	102.5%
HAKUBA VALLEY鹿島槍スキー場	95	93	97.1%
竜王スキーパーク	200	202	100.6%
川場スキー場	149	134	90.0%
めいほうスキー場	183	186	101.6%
菅平高原スノーリゾート	245	247	100.8%
計	1,609	1,658	103.1%

その他の施設における来場者数　（単位：千人）

会社名	平成29年 ４月末累計	平成30年 ４月末累計	前年同期比
川場リゾート㈱等	17	9	53.3%
めいほう高原開発㈱	4	3	88.4%
金剛山ロープウェイ	22	24	110.0%
信越索道メンテナンス㈱	0	0	81.6%
計	45	38	85.4%

(注)１．スキー場の来場者数については、リフト券の販売数に基づいて記載しております。

２．その他の施設における来場者数において、川場リゾート㈱等及びめいほう高原開発㈱は、主におにぎり店の来場者（レジ通過者数）の合計を記載しております。信越索道メンテナンス㈱は、金剛山ロープウェイに併設する施設の宿泊者数を記載しております。

ウィンターシーズンの主な取組は以下のとおりです。

当社グループの各スキー場では、冬期における天候リスクを抑えるべく人工降雪設備の新規投資や改修工事を進めております。当期は特に、HAKUBA VALLEY白馬八方尾根スキー場、HAKUBA VALLEY白馬岩岳スノーフィールド、川場スキー場、めいほうスキー場及び菅平高原スノーリゾートの一部で設備の強化及び改修を行いました。

営業面では、３月にオリンピック・メダリストやプロスノーボーダーと一緒に滑るイベントを各スキー場で開催した他、ご協賛を頂いた企業と連携した企画など多くの誘客施策に取り組みました。また、飲食サービスの改善にも努めた他、前年より開始した株式会社プリンスホテル、株式会社東急リゾートサービス及び当社が運営するスキー場で使用できる共通早割リフト券の販売を継続し、国内のお客様に主に利用いただきました。

各スキー場での主な施策は次のようなものです。

HAKUBA VALLEYエリアのスキー場では、パークやレストラン施設の拡充のほか、新しい会員サービスの導入、世界的に著名なプロスノーボーダーとファンとの交流、パウダースノーを楽しんでいただけるイベントを多く実施しました。白馬八方尾根スキー場では、前年より人気の非日常空間を楽しめる「Corona Escape Terrace」を当期も営業し、展望テラスにてビールや軽食をお楽しみいただきました。また県内の有名レストラン「軽井沢プリモ」やスターバックスの各種ドリンクを提供するオープンマーケットでは国内初の店舗として「八方うさぎ平カフェ」を新設するなど、山頂エリアでの施設を拡充いたしました。白馬岩岳スノーフィールドでは、ファーストトラックサービスに注力したほか、コブ・モーグルバーンの設置や山麓の「サニーバレーコース」内には人工地形を活かしてバンクやウェーブといったスノーアイテムを造成し、ビギナーにも楽しんでいただけるコース造成に注力しました。また、飲食サービスでは、東京・天王洲の人気ブルワリーレストラン「T.Y. HARBOR」とコラボしたポップアップバーを新設するなどコンテンツの拡充にも努めました。栂池高原スキー場では、極上のパウダースノーを存分に楽しんでいただける非圧雪プログラム「TSUGAPOW DBD」（３月までオープン)や「2018 BANKED SLALOM TGK」（４月）、「HAMMER BANGER SESSION 2018」（４月）などの人気イベントを開催いたしました。

次に、川場スキー場では、FLUX及びMAXEASYの２つのパークを設置しキッカーやジブアイテムを楽しむお客様向けのサービスの提供に努めました。前年新設したファーストステップゲレンデは、ビギナーやファミリー向けに認知度と利用の向上に努めました。また、川場ジェラート工房やムラサキスポーツ内の「BURTONコーナー」を新設するなどセンターハウス内のサービスも改善し、当期は４月22日まで冬季営業をいたしました。

竜王スキーパークでは、オールシーズンでご好評を頂いている 「SORA terrace」の拡張に伴い飲食メニューを若者向けに工夫するなど施設サービスの向上に努めました。また、「SNOWPARK」 はステップアップにちょうどいいアイテムを設置し、パーククルーの無料アドバイスも行うなど、お客様に安心してご利用いただけるように努めました。３月にはママさんプロスノーボーダーが主宰する「お母さんと赤ちゃんのためのスノーボードキャンプ」などイベントも多く開催し、スキー場は４月30日まで営業いたしました。

めいほうスキー場では、人工降雪設備の強化により営業日数の延長にも努めました。施設サービス面では、ビギナーにも挑戦していただける「CHIKEI PARK」という名称のパークを設置しました。また、スポンジボブやストライダー、チュービングなどお子様向けのファンアイテムのほかキッズパークに併設した室内プレイスペース「キッズランド」も設置し、多くのファミリーにご利用いただきました。３月には、手軽に日帰りスキー場にお越しいただきたいとの考えから「平日女性限定の手ぶらパック」を販売したほか、日本スノーボード産業振興会とのタイアップにより「SBJ ON SNOW FESTIVAL」を開催するなどイベントも複数開催し、４月８日まで冬季営業いたしました。

菅平高原スノーリゾートでは、人工降雪設備の強化やゲレンデ改良などにより、営業期間の確実性や滑走時の快適性向上に努め、当期も学生団体や競技団体のほか多くの菅平ファンのお客様にご利用いただきました。また、スキーメーカーや小売店の試乗会、スキークラブ、地域連盟単位での検定や研修会、周年記念行事などの誘致にも努め、４月７日まで営業いたしました。

レンタルサービスのスパイシーは、多数のインバウンドのお客様に当期もご好評をいただきました。また、前期にオープンした白馬・和田野の新店舗も周辺のホテル・ペンションへの営業を強化しレンタル利用・物販の強化に努めました。

Geekoutでは、スノースポーツ愛好者向けの商品の取り扱いを始めました。特に、インバウンドの多いHAKUBA VALLEYエリアなどへの誘客に向けた営業に取り組んでおります。

（グリーンシーズン）

当第３四半期連結累計期間におけるグリーンシーズンの業績は、主に同第１四半期の業績から構成されています。当社グループのグリーンシーズンの主な事業は、スキー場のロープウェイやゴンドラを利用した事業及び宿泊施設、店舗を利用した事業となります。

当期においては、白馬岩岳MTB（マウンテンバイク）パークでは、４月の雪解けとともにMTBコースがオープンし、多くの上級者から初心者までのMTBユーザーにご利用いただきました。竜王マウンテンパークでは、雲海やサンセットを望むパノラマでご好評をいただいているテラス及びカフェ「SORA terrace」での施設サービスを強化し、ゴールデンウィーク期間中もスキーやスノーボーダーのほかに、ノンスキーヤーのお客様にもご利用をいただきました。めいほう高原では、グリーンシーズンのホームページをフルリニューアルし、スキー場周辺の豊かな自然を楽しむとともに、手ぶらで楽しんでいただけるバーベキュー施設やキャンプサイトを充実させ、４月28日より営業を開始しました。

以上の結果、グリーンシーズンの来場者は302千人（前年同期比20.0％増）となりました。グリーンシーズンの施設別来場者は次のとおりです。

索道を稼働した施設における来場者数　（単位：千人）

施設名	平成29年 ４月末累計	平成30年 ４月末累計	前年同期比
HAKUBA VALLEY国際山岳リゾート白馬八方尾根	67	70	105.0%
HAKUBA VALLEY白馬岩岳ゆり園＆マウンテンビュー	16	21	126.2%
HAKUBA VALLEYネイチャーワールド栂池高原	51	52	102.3%
竜王マウンテンパーク	41	83	203.3%
金剛山ロープウェイ	28	27	98.2%
計	204	255	124.8%

その他の施設における来場者数　（単位：千人）

会社名	平成29年 ４月末累計	平成30年 ４月末累計	前年同期比
㈱鹿島槍	9	7	81.0%
川場リゾート㈱等	22	21	96.8%
めいほう高原開発㈱	13	15	114.5%
信越索道メンテナンス㈱	1	1	103.1%
計	47	46	99.1%

（注）１．索道を稼働した施設における来場者数については、リフト券の販売数に基づいて記載しております。索道とは、ゴンドラ、ロープウェイ及びリフトを指します。

２．その他の施設における来場者数において、㈱鹿島槍は、HAKUBA VALLEY鹿島槍スポーツヴィレッジの来場者及びグリーンシーズンでのスノーボードトレーニング施設の来場者の合計を記載しております。

川場リゾート㈱等は、主に川場リゾート㈱のサバイバルゲーム場、スケートボードパーク施設の来場者及びおにぎり店の来場者（レジ通過者数）、ロサンゼルスに出店している子会社のKawaba Resort USA Inc.のおにぎり店の来場者（レジ通過者数）を含めております。

めいほう高原開発㈱は、主におにぎり店の来場者（レジ通過者数）及び体験型企画旅行の来場者の合計を記載しております。

信越索道メンテナンス㈱は、金剛山ロープウェイに併設する施設の宿泊者数を記載しております。

これらにより、連結業績は売上高が5,876,060千円（前年同期比3.7％増）、営業利益は1,107,365千円（前年同期比14.2％増）、経常利益は1,098,637千円（前年同期比13.5％増）となり、また親会社株主に帰属する四半期純利益は801,460千円（前年同期比57.6％増）となりました。

（今後の取組み）

ウィンターシーズンの今後の取組みとして、HAKUBA VALLEY は米国コロラド州ブルームフィールドに拠点をおくベイルリゾート株式会社と長期アライアンス契約を締結し「EPIC PASS(エピックパス)」と提携することになりました。HAKUBA VALLEY の加盟により2018-2019シーズンから、Epic Passは８か国、全64リゾートにて利用できる世界最大の国際シーズンパスとなり世界的な認知度が高まり、Epic Passホルダーの利便性が向上することも期待されています。

グリーンシーズンの今後の取組として、HAKUBA VALLEYエリアにおいて、平成30年夏に全世界15カ国で人気のフランス発のアドベンチャー施設『Xtrem Aventures HAKUBA TSUGAIKE WOW!』をHAKUBA VALLEYネイチャーワールド栂池高原内において開始いたします。また、日本でも希少な絶景“三段紅葉”が一望できる標高1290ｍの山頂テラス『HAKUBA MOUNTAIN HARBOR』がHAKUBA VALLEY白馬岩岳ゆり園＆マウンテンビューに平成30年秋に誕生する予定です。テラス内にはカフェとともに焼き立てのパンが楽しめるニューヨークの人気老舗ベーカリー「THE CITY BAKERY」をオープンする予定です。

（２）財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

（資産）

当第３四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末と比べて747,963千円増加し、6,785,074千円となりました。主な要因は、現金及び預金が156,012千円増加したことに加えて売掛金が485,773千円増加したことによるものです。

（負債）

当第３四半期連結会計期間末における負債は、前連結会計年度末と比べて60,593千円減少し、856,565千円となりました。主な要因は、未払金が72,018千円減少したことによるものです。

（純資産）

当第３四半期連結会計期間末における純資産は、前連結会計年度末と比べて808,557千円増加し、5,928,509千円となりました。主な要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上に伴い利益剰余金が801,460千円増加したことによるものです。

（３）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、平成30年６月６日の「業績予想の修正に関するお知らせ」の通りであります。

２．四半期連結財務諸表及び主な注記

（１）四半期連結貸借対照表

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成29年７月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成30年４月30日）
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,359,137	2,515,150
売掛金	107,076	592,849
たな卸資産	110,792	122,964
繰延税金資産	30,549	13,601
その他	171,583	189,854
流動資産合計	2,779,139	3,434,420
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	1,005,909	1,050,467
機械及び装置（純額）	855,673	911,604
その他（純額）	728,468	846,593
有形固定資産合計	2,590,051	2,808,665
無形固定資産		
のれん	157,025	94,036
その他	9,566	13,052
無形固定資産合計	166,592	107,088
投資その他の資産		
投資有価証券	14,184	14,184
繰延税金資産	433,031	366,457
その他	65,912	65,359
貸倒引当金	△11,800	△11,100
投資その他の資産合計	501,327	434,900
固定資産合計	3,257,970	3,350,654
資産合計	6,037,110	6,785,074
負債の部		
流動負債		
買掛金	33,969	25,626
1年内返済予定の長期借入金	60,000	60,000
未払金	183,639	111,621
未払法人税等	110,788	89,231
賞与引当金	10,741	1,788
その他	282,834	314,741
流動負債合計	681,972	603,009
固定負債		
長期借入金	180,000	180,000
役員退職慰労引当金	9,900	2,764
その他	45,286	70,790
固定負債合計	235,186	253,555
負債合計	917,159	856,565

（単位：千円）

	前連結会計年度 （平成29年７月31日）	当第３四半期連結会計期間 （平成30年４月30日）
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,666,156	1,666,156
資本剰余金	737,674	728,907
利益剰余金	2,408,663	3,210,124
自己株式	－	△46,729
株主資本合計	4,812,494	5,558,459
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	3,184	1,409
その他の包括利益累計額合計	3,184	1,409
新株予約権	21,758	33,125
非支配株主持分	282,514	335,514
純資産合計	5,119,951	5,928,509
負債純資産合計	6,037,110	6,785,074

（２）四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

（四半期連結損益計算書）

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成28年８月１日 至　平成29年４月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成29年８月１日 至　平成30年４月30日）
売上高	5,667,278	5,876,060
売上原価	2,248,159	2,283,042
売上総利益	3,419,119	3,593,017
販売費及び一般管理費	2,449,518	2,485,651
営業利益	969,600	1,107,365
営業外収益		
受取利息	35	22
有価証券売却益	3,528	－
災害損失引当金戻入額	－	2,100
その他	6,762	3,560
営業外収益合計	10,326	5,682
営業外費用		
支払利息	2,430	2,038
寄付金	5,533	3,933
事務所移転費用	－	1,397
貸倒損失	－	3,293
その他	4,311	3,747
営業外費用合計	12,276	14,410
経常利益	967,651	1,098,637
特別利益		
固定資産売却益	656	4,800
事業譲渡益	46,729	－
特別利益合計	47,386	4,800
特別損失		
固定資産除却損	5,004	1,981
減損損失	184,622	4,704
災害による損失	－	5,994
特別損失合計	189,627	12,680
税金等調整前四半期純利益	825,410	1,090,757
法人税、住民税及び事業税	180,229	159,990
法人税等調整額	45,971	83,871
法人税等合計	226,201	243,861
四半期純利益	599,209	846,895
非支配株主に帰属する四半期純利益	90,564	45,434
親会社株主に帰属する四半期純利益	508,645	801,460

（四半期連結包括利益計算書）

（第３四半期連結累計期間）

（単位：千円）

	前第３四半期連結累計期間 （自　平成28年８月１日 至　平成29年４月30日）	当第３四半期連結累計期間 （自　平成29年８月１日 至　平成30年４月30日）
四半期純利益	599,209	846,895
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,583	－
為替換算調整勘定	472	△1,774
その他の包括利益合計	△2,110	△1,774
四半期包括利益	597,098	845,121
（内訳）		
親会社株主に係る四半期包括利益	506,551	799,686
非支配株主に係る四半期包括利益	90,546	45,434

（３）四半期連結財務諸表に関する注記事項

（継続企業の前提に関する注記）

該当事項はありません。

（株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記）

該当事項はありません。

（重要な後発事象）

該当事項はありません。